



よしだつうしん

吉田通信

第40号
【2018年1月】

〒950-1475 新潟県新潟市南区戸頭1347-1 TEL:025-372-1138 FAX:025-372-1155

■■この吉田通信は私とご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一人通信です■■

◆大量に捨てることができた一番の要因◆

こんにちは！お世話になります。吉運堂の吉田竹史です。吉田通信第40号をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

さて、環境整備の一環で、昨年終わりに本社工場にあったいらぬものを3日かけて大量に捨てました。どれくらい大量かと言いますと、2トントラック3台分です。

本社工場にあった木製品の使わない材料や、展示品ではない古くなっていた在庫など、どんどん捨てました。物置になっていたところが、使っていないもので溢れかえていたのですが、捨てていく中で床が見え、そして壁が見え、最終的にとってもきれいになりました。

ちなみに、今回、大量に捨てることに成功した一番の要因は、捨てる“基準”を決めたことだと思います。私から社員の方々に「1年間使っていないものは捨てていいよ」と伝えたのです。

自分の家にあるものと違って会社にあるものは、自分は使っていないけれど、誰かが使っているのでは？もしくは、誰かがいずれ使うのでは？と、捨てることをすごく躊躇してしまいがちです。なので、私からみんなに「遠慮はいらぬから1年間使っていないものは捨てていいよ！」と、その捨てる“基準”を伝えたのです。

すると、さっきまで遠慮していたのがうそだったかのように、どんどん手が進み、あっという間にトラック3台分の不要品が出ました。空いた部屋は使い出したらまたものが増えるだけなので、これから何も置かないようにと伝えました。（何十年もものが置いてあって床も痛んでいるので、いずれいったん壊して新しい空間にする予定です）

そして、みんながこの捨てる経験を積んだことで、とてもいい流れにもなっています。あれだけ捨てても一切何も問題が起きないということを実感し（まだこれは本社に限られますが）普段からものを捨てる、減らす、そういう流れができたのです。もので溢れかえているよりも、ものが少ない環境の方が、断然仕事もはかどります。なかなか捨てられないときは“基準”を決めることが大事だと、改めて実感いたしました。



◆発行者コラム◆

今回もまた最後までお読みいただき、どうもありがとうございます。前々回の発行者コラムで「夏から家でお酒を飲んでいません」と書かせていただきましたが、今も家では飲んでいません。だからというわけではありませんが、今年は（昨年あまりできなかった）部門ごとの懇親会にもできる限り参加し、また、これは幹部に限られますが、サシ飲みも実施して、コミュニケーションを取っていかれたらと考えています。それでは、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。吉田竹史

■■吉田通信を今後ご希望されない方は、大変お手数ですが090-3339-0424までご連絡をお願いいたします。■■

【発行者プロフィール】

名前：吉田 竹史（よしだ たけし）
生年月日：昭和40年8月21日（O型）
出身地：新潟県白根市（現・新潟市南区）
経歴：都内の学校を卒業後、証券会社（水戸 & ニューヨーク）の4年間の勤務を経て吉運堂へ。

趣味：上手くないゴルフ、強くない将棋
（NHKの将棋対局を見ることは好きです）
家族構成：妻、娘、息子



吉田 竹史